

リードオルガン特別講座

「ハルモニウムの楽曲をリードオルガンで弾く

－C. フランクとカルク＝エーレルトの作品から」

2025 年 1 月 11 日 (土) 16:30～18:00

於 マグノリア・ルーム (池袋キャンパス、チャペル会館 2 階)

ハルモニウムは 19 世紀、吹子の風をコントロールして微細な音から重厚な音まで、音楽的表現が可能な鍵盤楽器としてヨーロッパで製作され、当時のパリのカトリック教会はもとより、貴族や富裕層宅のサロンに置かれました。オルガニストたちはその場に相応しい楽曲を多く書き残しています。吹き込む風でリードを鳴らすというコントロールの難しい奏法を解決するべく、発明されたのがリードオルガンです。リードオルガンは吸い込む空気です。リードオルガンで礼拝を捧げている教会も多くある中、ハルモニウムの為に書かれた楽曲を記載されたストップの意味を解さず弾かれている現状があります。

本講座ではハルモニウム用の作品をリードオルガンでどのように演奏し、奏楽に活かすかについて、スイスを中心にヨーロッパでハルモニウム演奏を活発に行っているオルガニストを講師に招聘し、共に学びましょう。

なお、本講座は対面で開催いたしますが、その模様を動画収録して、1 週間後に限定配信いたします。

講師：マーク・フィツェ Marc Fitze

(スイス・ベルン聖霊教会オルガニスト・芸術監督、ハルモニウム奏者)

通訳：崎山 裕子 (当研究所所員、立教学院オルガニスト)

課題曲：セザール・フランク

“L’ORGANISTE pour ORGUE ou HARMONIUM 1er Volume”

ジークフリート・カルク＝エーレルト

“Intarsien – Fünfzehn Kleine Charakterstücke HARMONIUM”

※楽譜をお持ちでない場合は、インターネットの無料楽譜サイトからダウンロード
できます。お申込み時に、ご案内いたします。

対面参加：参加費無料 定員 30 名 事前申込制

動画配信：制限なし 事前申込制

申込方法：事前のお申込が必要となります。以下のURL、またはQRコードの
申込専用フォームから、必要事項をご入力の上お申込ください。



申込URL：<https://forms.gle/kRgEHHnpECr6AzTDA>

主催/問合せ先： 教会音楽研究所（メール music@nikkyo.ac.jp）

講師プロフィール：マーク・フィツェ Marc Fitze
スイス・ベルン出身。バーゼル音楽院オルガン科で
Guy Bovet 氏に師事し、ソリスト・ディプロマ、及び
年間最優秀演奏者に授与されるハンス・バルマー賞を
得て2002年に修了。その間に、米ボストンのニュー
イングランド音楽院へ1年間留学し、故・林佑子氏に
師事した。これまでスイス国内はもとより、ドイツ、
フランス、イタリア、英国、スペイン、オランダ、
ウクライナ、イスラエル、メキシコ、アメリカ、日本に招聘され、コンサートを行う。



現在、ベルン駅前に聳える聖霊教会オルガニスト、聖霊教会バロックセンター音楽監督、ベルン音楽院オルガン科教授を務めている。又、サン＝サーンスの『動物の謝肉祭』全曲演奏など、CDを多数、リリースしている。

ハルモニウムとの出会いは、ヨリス・フェルダン氏の講習会に参加したことから始まり、自宅にはパリで弾かれていた歴史的なハルモニウムを6台、所有している。これまで、ウィーン交響楽団、ベルン交響楽団、チューリッヒ室内管弦楽団等と、ハルモニウム奏者として共演。また、楽器を自ら搬送してコンサートを開催するなど、ハルモニウムの魅力を伝える活動を熱心に行っている。

今回の来日に合わせ、日本基督教団倉敷教会（2025年1月18日）、日本基督教団近江八幡教会（2025年1月25日）の歴史的ハルモニウムでコンサートを開催する。

学校法人
立教学院（池袋）
構内案内図

